

## 刊行にあたって

「バブル崩壊」という経済的な事件が、日本で一九九〇年近辺に起こりました。一九四五年に第二次世界大戦に敗戦した日本は、戦後の復興から、約半世紀にわたる経済成長をとげましたが、「バブル崩壊」は「高度経済成長」から続いていた日本の右肩上がりの時代の終わりを告げるものでした。

それ以降、日本では「失われた三十年」とも言われる沈滞の時代が続いています。

「一億総中流」と呼ばれ、がんばれば誰もが豊かになれると信じられた社会から、貧困率が上昇し続ける「格差社会」へと、日本の社会は姿を変えつつあります。子どもたちの生活においても、「7人に1人」が貧困であると言われています。

貧困は子どもたちから教育の機会を奪います。子どもが成長して親になったときに、教育の不足ゆえに低い収入で働き続けることを受け入れざるを得なかったとすれば、その次の世代の子どもも、また貧困に苦しみ、十分な教育から遠ざけられかねません。これは「貧困の連鎖」「格差の連鎖」と呼ばれています。

また、教育の不足で十分な収入が得られないために、不本意ながら結婚や出産をあきらめる人たちもいることでしょう。青壮年の貧困は「少子化」の大きな原因のひとつともなっています。

こういった悪循環は、日本の現在の大人である私たちが作りだしたものであり、子どもたちには何の責任もありません。この悪循環を止めるにはいろいろな方法があるかと思いますが、「高齢化」が進行し、福祉にますます財源が必要になる中でも、貧しさの原因で子どもが学びをあきらめるような社会をつくってはならないと、私たちは考えています。

『ワンコイン参考書・問題集（税別500円）』／『ツーコイン電子参考書・電子問題集（税別200円）』は、未来を担う日本の子どもたちが安くても良質な参考書・問題集を手に入れるようにとの思いで刊行しました。この理念に賛同してくれた著者の先生や、制作会社、印刷会社の人たちのおかげで、このシリーズを刊行することができました。

子どもたちよ、どうか「学びを、あきらめない」でください。このシリーズが子どもたちの役に立つことを祈っています。

二〇二二年一〇月二七日 日栄社編集部

# もくじ 小5国語参考書

第1章	国語の基礎 <small>きそ</small>	4
第2章	ことばと漢字	60
第3章	文法	114
第4章	説明的文章	162
第5章	随筆 <small>ずいひつ</small>	186
第6章	物語	206
第7章	詩	230
第8章	戯曲 <small>げきく</small>	246
確認問題	解答	256

# 1 かなづかい

ことばを「かな」で書き表すときの決まりを「かなづかい」と言います。ほとんどのことばは「発音どおりのかなで書く」のが原則げんそくですが、例外もあります。例外をしっかり覚えましょう。

①原則：発音どおり書き、「ワ・エ・オ」と発音するものも、「わ・え・お」と書く。

(例) 思おもわない・備そなえる・おおごろく

例外：「ワ・エ・オ」と発音するが、「は・へ・を」と書く。

(例) ぼくは、野球やきゅうをしてから家へ帰かえった。

②原則：長音（長くのぼす音）は「あ・い・う・え」を加えて書くが、

## 参考

### 原則と例外

基本的なパターンが「原則」、そのパターンにしたがわないのが「例外」です。反対語として覚えましょう。

「オー・コー・ソー」など、五十音のオ段だんの音を長くのばすときには、「おう・こう・そう」と「う」を加えて書く。

(例) おかあさん(お母さん)・にいさん(兄さん)・

ゆうだち(夕立)・ねえさん(姉さん)・

こうえん(公園)・ほうそう(放送)・おうえん(応援)

例外：「エー」とのばすものうち、次の場合は、「い」をそえる。

(例) とけい(時計) せいかつ(生活)

例外：「オー」とのばすものうち、次の場合は「お」を加える。

(例) おおきい(大きい)・とおい(遠い)・こおり(氷)・とお(十)・

おおやけ(公)・おおい(多い)・とおる(通る)

③原則：「ユー」とのばす音の場合、「ゆう」と書く。

例外：「言う」の場合だけは「いう」と書く。

④原則：「ジ・ズ」と発音するじとほは「じ・ず」と書く。

(例) あずける(預ける)・少しずつ(あじわう) (味わう)

例外：次の二つの場合は、「ぢ・づ」と書く。

(1) 一語があわさって「ち・つ」が濁音だんおんになった場合

(例) 近ちかづくづ || 近ちかづくづ、カちかつづよいづ || カちかづづよい、

底ちか + ちちから || 底ちかちちから

(2) 「ちぢぢ・・・つづ」のよう同じ音が重なる場合

(例) ちぢぢぢむぢ (縮ぢぢむ) (つづづく) (続づく) (つづづる) (綴づる)

#### 参考

#### 「ぢ・づ」

上記の、かなづかいの例外2パターンは、覚えておくと便利です。

1 次の□の中に適てきとうなひらがなを入れましょう。

1. 急に、□しんが起おこつたら、あなたはどうしますか。
2. 春が近□くにつれ、心がうきうきしてきました。
3. あまりのおそろしさに、身がち□む思いがしました。
4. 大田君は、たいへんじょう□に絵をかきます。
5. 駅前に、お□ぜいの人が集まっています。
6. 先生の□うとおりに勉強して下さい。
7. 空は、とほ□もなく広い。
8. この部屋には家具がお□いので、せまい感じがする。

2 次のア～カの中から、かなづかいのまちがっているものを選び、正しく直ただしましょう。

- |   |      |        |   |      |      |   |      |      |
|---|------|--------|---|------|------|---|------|------|
| ア | おあさん | (お母さん) | イ | ゆうがた | (夕方) | ウ | いもおと | (妹)  |
| エ | とつる  | (通る)   | オ | とおい  | (遠い) | カ | おうじ  | (王子) |

# 2

## おくりがな

漢字を誤りなく読むために、漢字の下にそえるものが、おくりがなです。これも一応の原則はありますが、例外も多いので、なるべく語句それぞれの場合について、覚えていくのがよいでしょう（動詞・形容詞・形容動詞・副詞・名詞・活用といった文法用語については、改めて文法の項目で、くわしく説明します）。

① **動詞など活用**（変化）のある語は、次のように、**活用語尾**（変化するおしりの部分）からおくる。**形容詞**は「か・く・い・け」の部分からおくり、前に「っ」がつくものは「っ」からおくる。

（動詞の例）開かない・開きます・開く・開けば・開け

起きない・起きます・起きる・起きれば・起きろ

(形容詞の例) 広い・広く・広かろう・広ければ

美しい・美しく・美しかろう・美しければ

新しい・新しく・新しかろう・新しければ

②活用する前の部分に、「か・やか・らか」のつく形容動詞は、そこから  
おくる。

(例) 安らかだ・明らかに・軽やかで・静かに・健やかに

③副詞や名詞には、必要に応じて最後の二音節をおくる場合がある。

(例) 全く・必ず・常に・勢い・幸せ・自ら・半ば

④それ以外にも、読み誤るおそれのあるものについては、そこからおくる。

(例) 終わる・終える 動かす・動く 加わる・加える

集まる・集める 細かい・細い



⑤二つ以上のことが結びついてできたことばには、**それぞれのおくりがなのつけ方**によっておく。

(例) 受ける＋付ける⇨受け付ける 話す＋合う⇨話し合う

移る＋変わる⇨移り変わる 歩む＋寄る⇨歩み寄る

⑥二つ以上のことが結びついてできたことばの中でも、**次のような名詞には慣用**にしたがって、**おくりがなはつけない**。

(例) 試合(しあい)・合図(あいず)・立場(たちば)・

役割(やくわり)・場合(ばあい)・切符(きっぷ)・

建物(たてももの)・割合(わりあい)・消印(けしいん)

1 次の ( ) 内のおくりがなの使い方で、正しいものを一つ選びましよう。

1. 昨日、(新しい／新しい／新らしい) 本を買った。
2. ここはとても (静ずか／静か／静づか) だ。
3. 子どもをプールで (泳せる／泳よがせる／泳がせる)。
4. 車が多くて (少こしも／少しも／少も) 進まない。

2 次の□の中なかにひらがな一字を入れ、意味いみが通とるようようにしまししままししよよう。

1. ア この水はとても冷□い。      イ 雪ゆきが降ふる日はよく冷□る。
2. ア 研究けんきゅうに研究けんきゅうを重□る。      イ 重□荷物にんぶつを持ち上げた。
3. ア 赤ちゃんあかちゃんが目を覚□す。      イ けさは寒ささを覚□た。
4. ア 雨戸あまどが強い風かぜで外□た。      イ タイヤたいやを車体くるまから外□た。
5. ア 手品てびんの種かたを明□す。      イ 事件じけんの真相しんさうが明□かになる。

# 3

## 主語・述語

チューリップの 主語 花が 述語 きれいに 咲いた。

とつうように、文の「何が(は)」「にあたる部分を主語、その部分に対して」「どうする／どんなだ／なんだ」にあたる部分を述語といいます。日本語は、まず述語を確認してから主語を見つける方が、まちがいが少ないです。

(例1) 日本には、まださまざまなところで欠点が見られます。

述語 || 「見られます」 ↓ 何が? 「欠点」 || 主語

(例2) 先週から降っていた雪も今日はやんだ。

述語 || 「やんだ」 ↓ 何が? 雪(が) ↓ 「雪も」 || 主語

(例2) のように、**主語**につくことばには、「は」「が」以外にも「も」「こそ、さえ、でも、の、だけ、ばかり」などがあります。また、「が」や「は」があるからすぐに**主語**だと**断定**することはできません。**述語**から**判断**しましょう。

また、「を、に、へ」などがついているものは**主語**ではありません。  
では、次の(例3)の**主語**と**述語**はどれでしょう？

(例3) 雨ばかりか風さえもまじってきた。

述語＝「まじってきた」 ↓何が？ 風(が) ↓「風さえも」

＝主語

さらに、日本語では文の一部を**省略**した表現が多く、**主語**や**述語**が**省かれていくことも**あるので、**気をつけ**ましょう。

(例4) とうとう降ってきました。(述語のみ、主語省略)

あぶない！(述語のみ、主語省略)

あなたは、どちらへ？(主語のみ、述語省略)

## 参考

### 主語の省略

日本語の場合、特に**主語**は**不可欠**の要素というわけではなく、ひんぱんに省略されますから注意しましょう。いっぽう英語では、**主語・述語**は**原則**として**不可欠**です。そもそも「**主語・述語**」という考え方自体、英語をはじめとする西洋の言語をモデルにして生まれたものです。

1 次の各文から主語と述語を選びましょう。あてはまるものがなければ×を書いてください。

1. 黄色い 花が きれいに 庭で 咲いている。
2. わたしたちの 校庭は すこし せまい。
3. とても 高いよ、毛皮の コートは。
4. 地球には おおぜいの 人間が 住んでいる。
5. むずかしくて とても できません。
6. 春の タンポポに かわって 初夏の 野道を かざる 花は  
水玉もよつの シロツメクサです。
7. わたしの 顔が 目の前の 大きな 鏡に うつつた。
8. 森林の 上の 空は たいへん 美しかった。

2 次の各文の主語と述語を答えましょう。主語がない場合は×を書いてください。

参考  
主語・述語問題への対応  
さきほど学習した通り、  
まず述語を確定して、次  
に、その述語に対応する  
主語を見つけましょう。

述語の動詞

品詞分類すると、「咲いて  
いる」「咲く」「+」いる、「  
住んでいる」「は」「住む」  
+「いる」と、それぞれ二  
つの動詞で構成されてい  
ます。ふつうは、述語に  
ふくまれる自立語（この  
場合は動詞）は一つだけ  
ですので、その原則にし  
たがえば、前者も後者も

1. 同じ教室で勉強した友人たちは、それぞれの道を選んで、卒業した。
2. 弟のなわとびは、毎朝の練習でたいへん上達しました。
3. きのことてもつかれたので、入浴した後、早めにねた。
4. 小さいころわたしが住んでいた家には池がありました。
5. 白い雪をかぶった山の峰が美しくかがやく。

**3** 次の文中の——線部は述語になっています。それぞれに対応する主語を答えましょう。

自分はいくどとなく、青い水に臨んだアカシアが、初夏のやわらかな風に吹かれて、ほろほろと白い花を落とすのを見た。自分はいくどとなく、霧の多い十一月の夜に、暗い水の空を寒そうに鳴く、千鳥の声を聞いた。自分の見、自分の聞くすべてのものは、ことごとく、大川に対する自分の愛を新たにす。

(芥川竜之介『大川の水』より)

述語は「いる」になります。しかし「いる」だけでは意味がわかりにくいので、この参考書では「咲いている」「住んでいる」「一つの述語とします。学校や塾によつては、「いる」だけを述語とする場合もありますので、注意しましょう。

# 4

## 修飾語しゅうしきご

チューリップの 花が きれいに 咲いた。

花↓どんな？↓チューリップの || 修飾語

咲いた↓どのようにつ？↓きれいに || 修飾語

このように、主として後に続くことばの意味や様子をくわしく説明していることばを「修飾語しゅうしきご」(かざりことば)とします。これに対して、「かざられることば」を「被修飾語ひしゅうしきご」といいます。「修飾・被修飾」の関係を「かかり・うけ」の関係と呼ぶこともあります。右の例では、「チューリップの」が「花が」を修飾し、「きれいに」が「咲いた」を修飾していません。

チューリップの花が

修飾語 ↓ 被修飾語

きれいに咲いた。

修飾語 ↓ 被修飾語

修飾語は、大きく見ると、「動作や状態」<sup>じゆうたう</sup>などを修飾し、主に「どのよ  
うに」を説明する修飾語のグループ（**連用修飾語**）と、「物や事がら」な  
どを修飾し、もっぱら「どんな」を説明する修飾語のグループ（**連体修飾  
語**）の、二つに分かれます。

連用修飾語 「どのように」	連体修飾語 「どんな」
すなおに はげしく たくさん こう 少し など	すなおな はげしい たくさん この たった など

### 参考

「連体」と「連用」

これらは「体言」に連なる「  
「用言」に連なる」という意  
味ですが、「体言」「用言」  
については、第3章で学  
習します。



1 次の各文の——線部の修飾語は、ほかのどのことばをくわしく説明していますか。一文節で答えましょう。

1. 木には たくさんの 赤い 実が ついて いる。
2. 小さな 失敗は だれでも した ことが あるだろう。
3. ひらひらと きれいな 花びらが 庭に 散った。
4. まっかな 太陽が 海上に のぼった。
5. 花が 大きく きれいに 咲いた。
6. 霜の 結晶を けんび鏡で 調べる。
7. たとえ どんなに 苦しんでも あきらめては いけない。
8. 自転車が だんだんと スピードを 増した。
9. 丸顔の かわいい 男の子が ちらっと こちらを 見た。

2 次の各文の——線部は、ア「主語」、イ「述語」、ウ「修飾語」のうち、どれにあたりますか。それぞれ記号で答えましょう。

文節

参考

「文節」については、第3章で学習しますので、習っていない人は気にせず、上の問題をやってみて下さい。たとえば、「赤い花が咲いた。」で「赤い」が修飾する「一文節」を問われたら、答えは「花」ではなくて「花が」になります。今は「赤い」が「花」を修飾していることがわかっていれば問題ありません。

1. 父は仕事に出かけました。
2. 来年、中学生になります。
3. 読んだよ、私もその本を。

**3** 次の文から、1と2の答えとして、ふさわしいことばをそれぞれぬき出  
しましょう。

習いはじめは、だれでも へたくそだから、見て いる 人は  
笑うだろう。

1. この文の主語にあたる部分はどれですか。
2. — 線部によって修飾されている部分はどれですか。

**4** 次の文の主語はどれですか。また、「たぶん」はどのことばにかかって  
いますか。それぞれ答えましょう。

たぶん 母は、それを 聞いて 喜ぶだろう。

# 14

## 漢字の音訓(1)

漢字には、音読みと訓読みという、二つの読み方があります。漢字が中国から伝わったときの発音をもとにしたのが「音読み」、もともと日本にあったことばの読み方を、漢字の持っている意味にあてはめたのが「訓読み」です。

(例)	海	車	土	風	山	足	東
音読み	カイ	シャ	ド	フウ	サン	ソク	トウ
訓読み	うみ	くるま	つち	かぜ	やま	あし	ひがし

◆音読み……もともと中国の発音をまねたものなので、その漢字一字の音を聞いただけでは、意味ははっきりとはわかりません(右の例の音読み

をもう一度見て下さい。「カイ」と聞いただけでは、それが「海」を意味するかどうかは、わからないですよね)。二字以上の熟語では、音読みする場合があります(例えば「深海」は「シンカイ」と音読みします)。また、漢字の中には、音読みしかしないものも多数あります。

(音読みだけの例) 愛・医・院・英・央・画・刊・校・士・隊など

◆**訓読み**……もともと**日本にあった読み方**なので、漢字一字を聞くだけでもだいたいの意味がわかります(例えば「海」を「うみ」と読めば、すぐに意味はわかりますね)。ふつうは一字だけで使われたり、おくりがなをつけて使われたりします。訓読みしかない字もあり、数は少ないですが、「漢字」に対して「国字」や「和製漢字」と呼ばれ、当然ながら中国から伝わったものではなく、日本で作られた文字です。

(訓読みだけの例) 畑・笹・峠・辻・芋・貝・株など

◆**間違えやすい読み**……「訓読みと間違えやすい音読み」「音読みと間違え

やすい訓読み」に注意しましょう。

(例) 訓読みと間違えやすい音読み

絵(エ)・駅(エキ)・円(エン)・王(オウ)・階(カイ)

客(キヤク)・金(キン)・銀(ギン)・席(セキ)

線(セン)・台(ダイ)・茶(チャ)・鉄(テツ)・毒(ドク)

肉(ニク)・百(ヒヤク)・秒(ビョウ)・服(フク)・本(ホン)

役(ヤク)・陸(リク) など

(例) 音読みと間違えやすい訓読み

日(か・ひ)・音(ね)・千(ち)・家(や)・間(ま)・場(ば)

夜(よ)・野(の)・屋(や)・根(ね)・実(み)・身(み)

代(よ)・氷(ひ)・路(じ)・菜(な)・真(ま)・相(あい)

辺(べ)・輪(わ) など

さらにこれらが熟語の中で用いられると、どれが音読みでどれが訓読みなのか判断はんだんに迷まようことがあります。対策たいさくとしては、ふだん熟語に接せつしたとき、なるべく考えたり調べたりしながら、読む習慣しゅうかんをつけるしかありません。

(例) 線路せんろ (センロ) 野菜やさい (ヤサイ) 深夜しんや (シンヤ) || 音読み  
旅路たびじ (たびじ) 野原のハラ (ノハラ) 夜空よぞら (ヨゾラ) || 訓読み

#### 参考

音読み・訓読みに親しむには

漢和辞典を引くと、必ず漢字の音読み・訓読みが書かれていますので、音読み・訓読みに親しむには、漢和辞典を日常的に使いこなすことをおすすめします。感覚的な判断だけでは、音読み・訓読みを識別しきべつするのはなかなか難むずかしいです。

1 次の——線部の漢字の読みと同じ読み方をするものを、それぞれア〜エから選びましょう。

- |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 9.  | 8.  | 7.  | 6.  | 5.  | 4.  | 3.  | 2.  | 1.  |
| 楽園  | 細工  | 作用  | 人形  | 万感  | 文句  | 都合  | 無表情 | 無言  |
| (ア) | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) |
| 楽屋  | 加工  | 作戦  | 形成  | 万一  | 文筆  | 都会  | 無事  | 言行  |
| イ   | イ   | イ   | イ   | イ   | イ   | イ   | イ   | イ   |
| 器楽  | 工面  | 作家  | 凶形  | 万病  | 天文  | 都心  | 無礼  | 言論  |
| ウ   | ウ   | ウ   | ウ   | ウ   | ウ   | ウ   | ウ   | ウ   |
| 楽団  | 工場  | 動作  | 形相  | 万物  | 文学  | 旧都  | 無音  | 伝言  |
| エ   | エ   | エ   | エ   | エ   | エ   | エ   | エ   | エ   |
| 行楽  | 工具  | 作曲  | 形態  | 万年筆 | 和文  | 都度  | 無精  | 断言  |

2 次の漢字の音読みをカタカナで、訓読みをひらがなで、それぞれ書きましよう。

1. 種
2. 輪
3. 幹
4. 綿
5. 額

**3** 次の各組の熟語じゆくごの読み方を答えましょう。

- |          |          |         |         |
|----------|----------|---------|---------|
| ① 反省・省略  | ② 引率・能率  | ③ 例外・外科 | ④ 合作・都合 |
| ⑤ 指図・意図  | ⑥ 細工・工作  | ⑦ 音楽・楽天 | ⑧ 自然・天然 |
| ⑨ 建立・起立  | ⑩ 書物・農産物 | ⑪ 午後・後半 | ⑫ 元氣・気配 |
| ⑬ 雑草・雑木林 | ⑭ 行列・行進  | ⑮ 正月・名月 |         |

**4** 次の——線部のひらがなを漢字（とおくりがな）に直しましょう。

1. ミルクをあたためる／部屋をあたためる
2. 家がたつ／木がたつ／関係をたつ
3. 国をおさめる／税ぜいをおさめる／学問をおさめる
4. ふくさう雑な地形／ふくさう習をする



# 15

## 漢字の音訓(2)

### ○熟語じゆくごの読み方

二字熟語の読み方は、上の字が音読みなら下の字も音読み、上の字が訓読みなら下の字も訓読み、というのが原則げんそくです。しかも実際じつさいは、熟語の大部分は「音・音」で読みます。

ただ、「上が音読みで下が訓読み」「上が訓読みで下が音読み」という例外もあります。これらは、慣用的かんようてきに読み継つがれてきたもので、限かぎられた数の熟語にしかあてはまりません。したがって、二字熟語の読み方は原則的に「音・音」「訓・訓」が正しく、例外的に「音・訓」「訓・音」という読み方がある、と覚えましょう。

### ○「重箱読みじゆうしやうひ」と「湯桶読みゆづくひ」

例外的な読み方を、「重箱読み」と「湯桶読み」と呼びます。「重箱」は「音・訓読み」を指し、「湯桶」は「訓・音読み」を指しています。「重箱」は「重ねた箱」のことなのだから、「かさねばこ」と「訓・訓」で読む方がわかりやすいのですが、「音・訓」で読みますし、「湯桶」も「湯を入れた桶」のことなのだから、「ゆおけ」と「訓・訓」で読む方がわかりやすいのですが、「訓・音」で読みます。

このように、例外的な読み方が定着した熟語は、数が限られるので、代表的なものは覚えてしましましょう。

### ○熟語の読み方のまとめ

①音・音読み⇨大部分の熟語がこの型。かた

学習 (ガクシユウ)・社会 (シヤカイ)・読書 (ドクシヨ)

交通 (コウツウ)・委員 (イイン)・時間 (ジカン)・参加 (サンカ)

②訓・訓読み⇨多くはないが、熟語の読み方としては正しいもの。

朝日 (あさひ)・植木 (うえき)・小鳥 (ことり)・草花 (くさばな)

### 参考

#### 重箱読みと湯桶読み

漢字の読み方が頭に入っ  
てくると、熟語も、漢字  
から読み方を推定でき  
るようになります。その  
ときに間違いやすいの  
が、重箱読みと湯桶読み  
です。自分では気がつか  
ないことも多いので、人  
が話しているのを聞いて  
「あれ？」と思ったとき  
には、必ず辞書を引いて  
確認して下さい。

昼間（ひるま）・右手（みぎて）・着物（きもの）・宿屋（やどや）

③ **重箱読み**⇨限られた特別な読み方である、**音・訓読み**

重箱（ジユウバコ）・王様（オウさま）・台所（ダイどころ）

番組（バンぐみ）・試合（シあい）・役目（ヤクめ）・金色（キンいろ）

④ **湯桶読み**⇨限られた特別な読み方である、**訓・音読み**

湯桶（ゆとう）・手本（てほん）・野宿（のじゆく）・荷物（にもつ）

消印（けしん）・身分（みぶん）・合図（あいず）・赤字（あかじ）

○ **二重読みができる熟語**

ごくまれに、「音・音読み」も「訓・訓読み」も成り立つ、**二重読み**の  
できる熟語があります。微妙びみょうにニュアンスが変わることもあります。

（例）父母（フボ・ちちはは）・上下（ジョウゲ・うえした）

音色（オンシヨク・ねいろ）・草木（ソウモク・くさき）

1 次の①～③0の熟語の読みを、音読みの部分はカタカナで、訓読みの部分  
はひらがなで答えましょう。

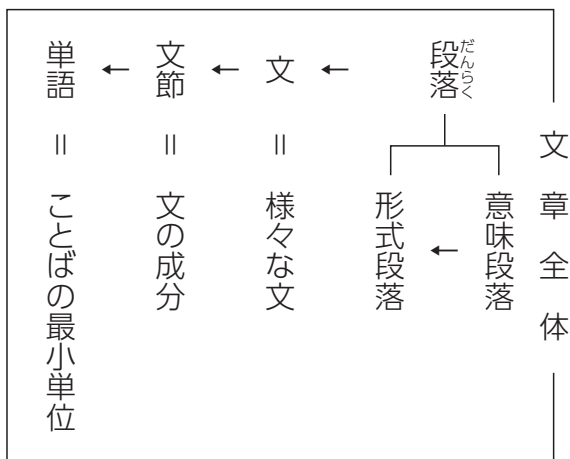
- |      |      |      |      |       |
|------|------|------|------|-------|
| ① 家屋 | ② 屋根 | ③ 夜道 | ④ 夜間 | ⑤ 客間  |
| ⑥ 役場 | ⑦ 線路 | ⑧ 旅路 | ⑨ 荷物 | ⑩ 植物  |
| ⑪ 物語 | ⑫ 出荷 | ⑬ 絵本 | ⑭ 絵画 | ⑮ 計画  |
| ⑯ 駅前 | ⑰ 肉食 | ⑱ 旗印 | ⑲ 関所 | ⑳ 王様  |
| ㉑ 合図 | ㉒ 陸地 | ㉓ 番組 | ㉔ 野原 | ㉕ 宿屋  |
| ㉖ 指図 | ㉗ 新芽 | ㉘ 麦芽 | ㉙ 消印 | ㉚ 両側  |
|      |      |      |      | ㉛ 箱読み |

2 熟語の読みには、①音・音読み、②訓・訓読み、③重箱読み(音・訓  
読み)、④湯桶読み(訓・音読み)の四通りがあります。次のア～クの  
熟語はそれぞれ①～④のどれにあたりますか。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| ア 仕事 | イ 野原 | ウ 絵画 | エ 関所 |
| オ 両手 | カ 復旧 | キ 緑茶 | ク 名前 |

# 25

## 文章の単位



文章を大きい単位から小さい単位へと並べると、上のようになります。「意味段落—形式段落—文」については、文章読解を通して学ぶこととなりますが、ここでは、さらに小さい単位である「文—文節—単語」の関係を見ていきましょう。

○文……句点「。」の直後から、次の句点「。」までの、言葉のひとつとまりを「文」といいます。次の■のところが「一文」です。

……と笑われた。 ■ しかし彼女は気にしなかった。 ■ 翌日、……

文は、その意味と組み立てから、次のように分類できます。

(1) 意味上の分類……平叙文・疑問文・感動文・命令文

●平叙文 (例) 学校が始まった。

●疑問文 (例) 君は何歳ですか？

●感動文 (例) なんて美しい花なんだ！

●命令文 (例) こっちへこい。

(2) 組み立て上の分類……単文・重文・複文

●**単文** 主語・述語が一組だけの、単純な構造の文。

(例) 車がどンドン走る。  
主語 述語

●**重文** 二組以上の主語・述語が互いに対等な関係にある文。

(例) 兄は立派な医者で、弟は有名な画家だ。  
主語 述語 主語 述語  
〔兄は立派な医者だ〕と〔弟は有名な画家だ〕が、対等に示されている。

●**複文** 二組以上の主語・述語がふくまれ、中心になるものと、そうでないものがある文。

(例) 私が食べたプリンはおいしかった。  
主語 述語 主語 述語  
〔プリンはおいしかった〕がこの文の中心であり、「私が食べた」は中心ではない。

◆**文節**……意味や発音が不自然にならない程度に、文を短く区切ったもの。文節で区切るときは、切れ目に「ネ、サ、ヨ」を入れて、不自然でなければよしとされています。ただ、実際はこれだけではなかなか判別できません。正しく文法的に定義するならば、

**文節＝一つの自立語（＋一つ以上の付属語）**

となります。これについては、品詞についての学習をひととおり終えたところでまた復習してみてください。今はとりあえず、「ネ、サ、ヨ」で、文節を区切る練習してみてください。次の例文を文節で区切って下さい。

(例) 私にだってあの人たちがやったことはきつとできます。

(答) 私にだってネ／あのネ／人たちがネ／やったネ／ことはネ／きつとネ／できますヨ。

**参 考**

**文節の識別のコツ**

「ネ、サ、ヨ」で識別するときのコツは、なるべく短く区切る、ということです。



◆文節と文節の関係……次の六種類があります。

(1) 主語・述語の関係

(例) 鳥が／飛ぶ。  
主語 | 述語  
(何が／どうする)

(例) 花が／美しい。  
主語 | 述語  
(何が／どんなだ)

(例) 私が／山田です。  
主語 | 述語  
(何が／なんだ)

(2) 修飾・被修飾の関係

(例) 美しい／花が／きれいに／開く。  
修飾 | 被修飾 | 修飾 | 被修飾

「びんごな」「びんごのようご」を説明するのが修飾語

(3) 並立へいりつの関係

(例) ぼくと／弟は／アメリカに／行った。

(4) 接続せつぞくの関係

(例) 雨が／降った。／しかし、／出かけた。

(5) 補助ほすけの関係

(例) 吾輩わがはいは／猫ねこで／ある。

〔吾輩は〕に対応する述語は「猫だ」で、「ある」は「猫だ」を補助している。

(例) 種を／植えて／みる。

〔みる〕は述語「植える」を補助している。

(6) 独立どくりつの関係

(例) ああ、／きれいな／花だ。

〔ああ〕はなくてもよいので、独立しているとみなす。

1 次の1〜3の文は、ア 単文、イ 重文、ウ 複文、のどれに分類できますか。

1. ねこが屋根でねずみをつかまえている。
2. 私はねこがねずみをとるところを見た。
3. 右に見えるのが三浦半島で、左に見えるのが房総半島だ。

2 次の各文の——線部が修飾している文節を答えましょう。

1. 私の／小さな／弟が／遊んで／いる。
2. 山その／川の／ほとりに／点々と、／かやぶき屋根の／いなか家が／ある。
3. 自分を／本当に／思って／くれる／人の／忠告は／心／つらく／ひびく。
4. 本を／読むと、／はるか／昔の／出来事も／遠い／国の／様子も、／まるで／目の／前に／あるように／思える。

5. 雨だれの／音を／聞いて／いると、／春の／近づく／様子が／  
感じられる。

6. 日本人の／生活は／昔から／全ての／面で／植物への／依存度が／  
高かった。

**3** 次のア～カの文について、あとの1～4の問いに答えましょう。

ア人が道を歩いている。

イその花は小さく、また美しい。

ウ風が吹き、雨も降っている。

エ山からおりてくる老人にあった。

オちよっと、こっちへ来てよ。

カ美しいね、あの花の色は。

1. 主語が省略されている文はどれですか。

2. 主語・述語・修飾語が一つずつある文はどれですか。

3. 一つの主語について二つの述語がある文はどれですか。

4. 主語と述語の位置がふつうと逆になっている文はどれですか。

# 26

## 文節と単語

### ○単語

「文節」を、ことばの意味が失われないぎりぎりのところまで、さらに細かく分けた最小単位を「単語」といいます。

(例) 朝霧あさぎりが晴れて、すずめの鳴き声が聞こえてきた。

(文節) 朝霧が／晴れて、／すずめの／鳴き声が／聞こえて／きた。

(単語) 朝霧／が／晴れ／て、／すずめ／の／鳴き声／が／聞こえ／  
て／き／た。

このように、「文を自然な発音で短く区切った単位」である「文節」は、さらに小さな単位である「単語」からできています。そして、「単語」をその働きによって区別したものを「品詞ひんし」といいます。

・「朝霧が」 || 「朝霧」(名詞) + 「が」(助詞)

・「晴れて」 || 「晴れる」の変化した形「晴れ」(動詞)

+ 「て」(助詞)

・「聞こえて」 || 「聞こえる」の変化した形「聞こえ」(動詞)

+ 「て」(助詞)

・「きた」 || 「くる」の変化した形「き」(動詞) + 「た」(助詞)

「朝霧」「が」「晴れる」「て」「聞こえる」「て」「くる」「た」は、これ以上分けると意味が失われてしまう「ことばの最小単位」です。これらの語が、すべて国語辞書の見出し語であることに注意して下さい。国語辞書の見出し語となるような、ことばの最小単位が単語なのです。

### ○文—文節—単語

「文—文節—単語」について、おさらいします。

●文 ・ ぶんけい 文型

①何が／どうする      ②何が／どんなだ

③何が／なんだ

・文の意味上の分類

①平叙文 ②疑問文 ③感動文 ④命令文

・文の組み立て上の分類 ①単文 ②重文 ③複文

## ●文節

・間に「ネ、サ、ヨ」を入れて短く区切った単位

・文法的には「文節＝一つの自立語（＋一つ以上の付属語）」

・文の成分＝主語・述語・修飾語・接続語・独立語

・文節と文節の関係

①主語・述語の関係 ②修飾・被修飾の関係

③並立の関係 ④接続の関係

⑤補助の関係 ⑥独立の関係

## ●単語

・これ以上分解すると意味が失われてしまう、ことばの最小単位

・国語辞書の見出し語になる

1 次の各文を単語に分けましょう。

1. 危ないめにあったりして、みんなはやっと村へたどりつきました。
2. 空気はなんとなく春らしくなりました。
3. ふと見ると、道ばたの日だまりに小さいすみれの花が咲きかけている。
4. このおじいさんは、もうずいぶん年をとっていました。
5. たまねぎをおさえている右手が、だんだん左の方へよります。
6. 虫めがねを近づけてよく見ると、□をいそがしそうに動かしています。
7. ひばりの食べ物、草原や畑にいる小さな虫です。
8. からだをゆっくりのぼしたりちぢめたりしながら、かいこは葉を食べ始めた。

参考

単語の識別

最初から単語に分けるのは難しいので、まず文節に分けて、その文節がさらに単語に分けられるかどうかを考えてみて下さい。